

戦 評 用 紙

第39回北海道体育大会 兼 第63回国民体育大会バレーボール競技〈成年6人制〉北海道ブロック予選会

第2回天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会北海道予選会

平成20年7月27日(日) 男子 準決勝

会場 旭川市総合体育館 (Aコート 第1試合)

nakaichi2001	2	{	22	—	25	}	1	北翔大学
(チーム名)			25	—	20			(チーム名)
			25	—	16			

1 s e t

チーム名 北翔大学		チーム名 nakaichi2001	
10	14	16	23
8	12	13	25
13	11	22	11

1 R	印 藤 智 一
2 R	村 中 伸
記録員	田 中 唯
A S	寺 林 昇
戦評員	北 島 博 孝

リベロ () リベロ (9)

第1セット:

序盤はリードを許した北翔大学だったが、中盤からサービスエースが出て、逆転する。

その後も要所でサービスエースが出て、1セットを先取した。

第2セット:

出だしに北翔大学が5連続得点でリードをし、その後は一進一退を繰り返した。中盤の

北翔大学のサーブミスに nakaichi2001 の速攻が決まり出し、1.6対1.5と逆転。以後は

nakaichi2001 ペースで試合が進み、nakaichi2001 がそのまま逃げ切った。

第3セット:

序盤からブロックや速攻が決まり、nakaichi2001 のペースで試合が進む。北翔大学のミスも

重なり、最後は一方的な展開となり、nakaichi2001 が勝利した。

戦 評 用 紙

第39回北海道体育大会 兼 第63回国民体育大会バレーボール競技〈成年6人制〉北海道ブロック予選会

第2回天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会北海道予選会

平成20年7月27日(日) 男子 準決勝

会場 旭川市総合体育館 (Aコート 第2試合)

北海道クラブ <hr style="width: 80%; margin: auto;"/> (チーム名)	2	$\left\{ \begin{array}{l} 25 - 21 \\ 21 - 25 \\ 25 - 14 \end{array} \right.$	1	TVC <hr style="width: 80%; margin: auto;"/> (チーム名)
--	---	--	---	---

1 s e t

チーム名 TVC		チーム名 北海道クラブ
5	8	1
12	9	3
19	14	18
14	14	15

1 R	佐藤 真理
2 R	新庄 元幸
記録員	石崎 賢
A S	新居 高敏
戦評員	北島 博孝

リベロ (1 1) リベロ (1 2)

第1セット:

序盤・中盤とペースの取り合いで一進一退を繰り返し、両者互角の戦いを繰り広げたが、高さに勝る北海道クラブが好レシーブからの強打が冴え、このセットを奪った。

第2セット:

第1セットと同様、北海道クラブの強打とTVCのブロック等で一進一退を繰り返すも終盤で北海道クラブに攻撃のミスが出て、TVCがセットを奪い返した。

第3セット:

立ち上がりから北海道クラブの高さを生かした攻撃が決まり、リズムをつかむ。TVCのコンビミスもあり、一方的な展開となり、北海道クラブが勝利した。

戦 評 用 紙

第39回北海道体育大会 兼 第63回国民体育大会バレーボール競技〈成年6人制〉北海道ブロック予選会

第2回天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会北海道予選会

平成20年7月27日（日） 男子 決勝

会場 旭川市総合体育館 （ Aコート 第3試合 ）

nakaichi2001	3	}	<table style="border: none; text-align: center;"> <tr><td>25</td><td>—</td><td>22</td></tr> <tr><td>34</td><td>—</td><td>36</td></tr> <tr><td>25</td><td>—</td><td>22</td></tr> <tr><td>25</td><td>—</td><td>19</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </table>	25	—	22	34	—	36	25	—	22	25	—	19	—	—	—	1	北海道クラブ
25	—	22																		
34	—	36																		
25	—	22																		
25	—	19																		
—	—	—																		
(チーム名)					(チーム名)															

1 s e t

チーム名 nakaichi2001 チーム名 北海道クラブ

2 2	1 1	1	1 4
2 5	1 3	3	1 7
2 3	1 6	1 8	1 5

1 R 印 藤 智 一

2 R 新 居 高 敏

記録員 新 庄 元 幸

A S 寺 林 昇

戦評員 北 島 博 孝

リベロ (9) リベロ (6)

第1セット：序盤高さを生かした攻撃で北海道クラブがリードしたが、中盤から終盤にかけて nakaichi2001 がブロックとコンビプレーでリードを奪いそのままセットを奪った。

第2セット：第1セットと同様、北海道クラブがリードして終盤を迎えたが、nakaichi2001 の連続ブロックなどで追いつき、デュースに突入。一進一退の展開だったが高さに勝る北海道クラブが強打を決め、セットを奪い返した。

第3セット：立ち上がりのリードを守っていた nakaichi2001 だったが、20 : 17 から北海道クラブ3番鈴木のパインチサーバーの起用が当たり、21 : 21 の同点となる。しかし北海道クラブのスパイクミスなどもあり nakaichi2001 がセットを奪い、セットカウント2 : 1とした。

第4セット：北海道クラブのスタミナ切れかサーブレシーブのミスから攻撃のリズムを失い、序盤に大きく点差が開いてしまった。その後は一進一退を繰り返すが、nakaichi2001 が序盤のリードを生かして逃げ切り、大会2連覇を成し遂げた。

戦 評 用 紙

第 3 9 回北海道体育大会 兼 第 6 3 回国民体育大会バレーボール競技〈成年 6 人制〉北海道ブロック予選会

第 2 回天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会北海道予選会

平成 2 0 年 7 月 2 7 日 (日) 女子 準決勝

会場 旭川市総合体育館 (Bコート 第 2 試合)

<u>北海道 V-spirit</u> (チーム名)	2	$\left\{ \begin{array}{l} 25 - 16 \\ 25 - 23 \\ - \end{array} \right.$	0	<u>道都大学</u> (チーム名)
-------------------------------	---	--	---	-----------------------

1 s e t

チーム名 道都大学

チーム名 北海道 V-spirit

9	1	1 0	1 4
5	1 0	4	1 6
1 4	1 1	1 2	1 3

1	R	菅野良夫
2	R	大杉栄一
記録員		林 勉
A	S	白井和美
戦評員		石坂貴光

リベロ (9)

リベロ (6)

第 1 セット :

昨年度本大会の優勝チームである V-spirit が序盤から優位に試合を進めた。中盤からの道都大学の粘り強いプレーで追い上げられたが、攻守に勝る V-spirit が 1 セットを先取した。

第 2 セット :

攻守がかみ合いはじめた道都大学が善戦、終盤まで一進一退の攻防を繰り返す。しかし、道都大学の粘りも一歩及ばず、V-spirit が勝利をものにした。

戦 評 用 紙

第39回北海道体育大会 兼 第63回国民体育大会バレーボール競技〈成年6人制〉北海道ブロック予選会

第2回天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会北海道予選会

平成20年7月27日(日) 女子 準決勝

会場 旭川市総合体育館 (Bコート 第3試合)

函館弥生クラブ (チーム名)	2	$\left\{ \begin{array}{l} 25 - 17 \\ 25 - 19 \\ - \end{array} \right.$	0	札幌ダックス (チーム名)
-------------------	---	--	---	------------------

1 s e t

チーム名 函館弥生クラブ チーム名 札幌ダックス

6	3	8	1
14	7	7	2
12	8	11	9

1 R	川崎 尚子
2 R	白井 和美
記録員	大杉 栄一
A S	村中 伸
戦評員	石坂 貴光

リベロ (1) リベロ ()

第1セット:

両チームとも動きに固さが見られる出だしであったが、中盤のサービスエースにより函館弥生クラブが試合の流れをつかんだ。その後も相手に主導権を与えることなく、第1セットを先取した。

第2セット:

お互いにまとまりのあるバレーで終盤まで一進一退の攻防を展開していたが、安定感に勝る函館弥生クラブが連取し、この試合に勝利した。

戦 評 用 紙

第39回北海道体育大会 兼 第63回国民体育大会バレーボール競技〈成年6人制〉北海道ブロック予選会

第2回天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会北海道予選会

平成20年7月27日（日） 女子 決勝

会場 旭川市総合体育館 （ Bコート 第4試合 ）

北海道 V-spirit	3	}	20 - 25	}	2	函館弥生クラブ
(チーム名)			25 - 15			(チーム名)
			17 - 25			
			25 - 23			
			15 - 12			

1 s e t

チーム名 北海道 V-spirit チーム名 函館弥生クラブ

9	1	8	12
5	10	7	14
14	11	3	6

1 R 村 中 伸

2 R 川 崎 尚 子

記録員 林 勉

A S 白 井 和 美

戦評員 石 坂 貴 光

リベロ (6) リベロ (1)

第1セット：スタートからお互いに内容のある粘り強いバレーを展開。中盤相手のミスでリードを奪った函館弥生が、そのままリードを守り切り、1セットを先取。

第2セット：序盤 V-spirit の攻撃が冴えリードを奪う。中盤は一進一退の攻防を繰り広げるも点差は縮まらず、V-spirit が逃げ切り、セットカウントを1対1に戻す。

第3セット：両チームとも一歩も譲らない攻防から、粘り強いプレーを見せる函館弥生が徐々に点差を広げ、終盤は落ち着いたあるプレーでこのセットをものにした。

第4セット：後のない V-spirit であるが、昨年優勝チームの意地を見せ、序盤から優位に試合を進める。終盤同点に追いつかれるも、最後は気迫あふれるスパイクでセットを奪い返し、勝負は最終セットへ持ち越された。

第5セット：エース同士の打ち合いで一進一退の攻防のまま前半を折り返すが、V-spirit が連続スパイクポイントで勢いに乗り、最終セットをものにし、大会連覇を果たした。